

チェコ第二の都市ブルノ、伝統の街と豊かな大地から生まれる音楽。
時を経ても変わらない受継がれる音色がそこにある一。

チェコ国立ブルノ・ フィルハーモニー管弦楽団

Brno Philharmonic Orchestra

モルダウ、運命、新世界！

今回の日本ツアーでは京都のみで披露する“運命”、
魂を揺さぶる“モルダウ”“新世界より”。

名匠スワロフスキー×チェコ伝統のブルノ・フィルが
渾身の名曲プログラムを携えて来日！

指揮：レオシュ・スワロフスキー

【予定プログラム】

スメタナ

交響詩「わが祖国」より“モルダウ”

B.Smetana : “Vltava” from “Má Vlast”

ベートーヴェン

交響曲第5番「運命」

L.V.Beethoven : Symphony No.5 in C minor Op.67

ドヴォルザーク

交響曲第9番「新世界より」

A.Dvořák : Symphony No.9 in E minor “From the New World” Op.95 B.178

2019年2月24日(日) 14:00開演(13:15開場)
京都コンサートホール 大ホール

京都市左京区下鴨半木町1-26 / 地下鉄烏丸線「北山」駅下車、③・①番出口から南へ徒歩5分

全席指定(税込) S席 9,000円 A席 7,000円 B席 5,000円 P席 3,000円

●主催 / 光藍社、otonowa ●共催 / 京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

●お問合せ / otonowa ☎075-252-8255 [10:00~18:30 / 日曜・祝日休み 土曜不定休] www.otonowa.co.jp

8月27日(月)
10:00
発売開始!!

プレイ
ガイド

京都コンサートホール
チケットぴあ(Pコード: 122-877)
ローソンチケット(Lコード: 53510)

☎075-711-3231
☎0570-02-9999
☎0570-00-0407
☎0570-08-4005
☎0570-08-9990

CNプレイガイド

イープラス

<http://eplus.jp/otonowa/>

高島屋京都店7Fチケットショップ

ロームシアター京都

otonowa ※電話予約のみ

☎075-746-3201

☎075-252-8255

郵便振替口座: 00960-8-322727 / 加入者名: オトノワ

※未就学児のご入場はご遠慮下さい。
※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更になる場合がございます。

Brno Philharmonic Orchestra

チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団

名曲の“姿”を鮮やかに映し出すブルノ・フィル

チェコ音楽家のクオリティーに感服—。飾らず深く、そして秘めたスラヴの情熱。

「名画」「名著」「名曲」—。様々な芸術・文芸の世界にあって、“名”が付く作品は、人類の才智と感性の結晶であり、いつの時代にあっても生命力を宿している。長きにわたり私たちの“心の拠りどころ”であり、これから何世紀もそうであり続けるだろう。なぜならそれは時を経ても鮮やかで、いつも触れるたびに“新たな発見”があるからだ。

私たちは「名画」「名著」には直接向かうことができるが、「名曲」は演奏家を通してその真髄にふれる。「名演奏」があって「名曲」の姿が浮かび上がるのだ。それが音楽の醍醐味である。

チェコ第二の都市ブルノ。モラヴィア地方随一のオーケストラ、ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団が同じくチェコ出身の指揮者、スワロフスキーとともにやって来る。これまでも来日を重ね、魂を感じさせる演

奏が私たち観客の胸を打ってきた。それはまるで魔法のように耳馴染んだメロディーが生きて輝きを放ち、姿を現した「名曲」が私たちに包み込むのだ。

プログラムのメインは違う個性を持つ2つの交響曲。『運命』の縦に積み上げられた知的な構成から生まれる音楽と、『新世界より』の絵巻のように横に広がり、地平の彼方に馳せた情感が先にでる音楽。どちらも名高き傑作だ。そして冒頭の『モルダウ』はチェコを貫く大河を描いた「国民的音楽作品」。ブルノ・フィルにはドイツ語『モルダウ』ではなく、チェコ語『ヴルタヴァ』であり彼らの音楽もそう響いているように聴こえる。スメタナが描いたヴルタヴァ河の壮大な情景と香りから始まる至福の時間。そこには「名曲」がもたらす“新たな発見”が待っているだろう。



レオシュ・スワロフスキー(指揮)

プラハ音楽院でフルートを学んだ後、著名なヴァーツラフ・ノイマンの下で指揮法を学んだ。チェコ国立歌劇場でズデニェク・コシュラーのアシスタントを務めた後、プラハ室内歌劇場、ヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団、ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団、スロヴァキア・シンフォニエッタ、プラハ国立歌劇場などの首席指揮者を歴任。プラハ国立歌劇場では芸術監督も務めた。現在はスロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者、ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団の名譽会員を務めるほか、セントラル愛知交響楽団の音楽監督にも就任している。音楽祭への参加も多く“プラハの春”“プラハの秋”、ブルノで開催される“モラヴィアの秋”の他、ヨーロッパ各地の音楽祭にも参加。これまでにシュターツカペレ・ドレスデン、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、東京都交響楽団等にも客演。チェコにおいてはチェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ・フィルハーモニア、プラハ放送交響楽団など主要な管弦楽団と共演を重ねており、現在のチェコを代表する指揮者の一人となっている。



ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団

チェコ第2の都市でありモラヴィア地方の中心地、ブルノを拠点に活躍するオーケストラ。1956年にブルノ放送交響楽団とブルノ地方交響楽団が合併し、現在の楽団が完成された。しかしこのオーケストラの起源は1870年代にさかのぼり、ブルノで活躍した若きヤナーチェクによって原形が作られている。そして創設以来、ブルノの音楽文化の中心としてその役割を果たしてきた。“プラハの春”や“モラヴィアの秋”をはじめヨーロッパの音楽祭への参加も多く、海外公演においては1956年以降、延べ700回を超え、ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど世界各地で公演を行っている。世界的に著名な指揮者やソリストとの共演も多く、ブロンフマン、ブッフビンダー、W. ケンプ、クレメルなどとも共演。教育プログラムや室内楽、合唱団との共演も積極的に行っており、ブルノに根差した高水準のオーケストラとして高い評価を得ている。



ご 注 意 と お 願 い

※チケットをお求めの際は、あらかじめ下記のことをご了承くださいませようお願い申し上げます。

■未就学児のご入場はご遠慮ください。 ■会場内における飲食、喫煙はご遠慮ください。 ■写真撮影、録画、録音等は一切禁止させていただきます。
■開演後のご入場は制限させていただく場合がございます。 ■曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。